

03.06.02

豊谷 勝雄

寿都町・美しい海作り研究 【海グループ】**1. コンセプトづくり**

フローに従い、グループ会員、寿都町民、研究会員と議論し創りあげる。

2. 現状調査【海グループ】**1). 海岸利用調査**

海岸利用調査は、産業的利用（水産業・土木工事・その他）、レジャー的利用（海水浴・釣り・キャンプなど）の現状を把握するため、7～8月の夏季に実施する。

調査方法は海岸線歩きながら目視観察するライントランセクト法とする。

併せて、付近住民や町民に対するヒアリングを行い、海岸利用の特性や海岸利用の変化等について聞取りする。

また、役場を中心に既存資料を収集し過去からの海岸利用の経過を取りまとめる。

2). 海岸汚染状況調査

海岸汚染状況調査は、利用調査と同じ7～8月の夏季に実施する。調査方法は海岸線歩きながら目視観察するライントランセクト法とする。

確認した汚染物質については、重量測定が可能であれば測定するとともに、汚染物質の特定、汚染物質の由来を調査する。併せて、付近住民や町民に対するヒアリングを行い、由来の特定や汚染開始時期等について聞取りする。

また、原因が推定可能であれば原因者へ出向き、排除の可能性を検討する。

3). 海岸景観の調査

海岸景観の調査は、利用調査と同じ7～8月の夏季に実施する。調査方法は海岸線歩きながら目視観察やカメラ・ビデオ撮影を行なう。海岸景観は、海岸のみならず海岸から望める山岳、丘陵、河畔、市街地とし、特徴的な景観に区分する。

4). 過年度調査の文献・資料調査

寿都町役場、北海道、開発局等の機関から、海岸汚染や海岸変化に影響を及ぼすと考えられる過年度実施工事の資料を収集し、海岸変化の経歴を取りまとめる。

また、過去の写真から、海岸線の変化を取りまとめる。

3. 現状調査の取りまとめ

海岸の原型（寿都町で産業化が起こり海岸線に変化が生じ始めた時点）から現在までの海岸変化（利用・汚染・景観）を年代順に取りまとめる。

また、変化に起因する要因が判断できるものは付記する。

そして何故海岸線が変化したか、町民が海岸変化に対応してどのような対処行動を行ったかを取りまとめる。